

# 國民性に就きて

|| フレーベル會總會講演筆記 ||

文部省督學官 野田 義夫

先達で、安井さんが私にこの會へ出席して何か話をしてくれと仰有つたのでありますが、私は幼稚園に關してはあまり多くを知らないのであります、それで一應おことわりしたのであります何が何でもいゝから一つ話して貰ひたいといふお話でしたので、保育と直接の關係はありませんが「國民性に就きて」といふ題を選んだのであります。

「國民性に就て」といふ題は非常に大きな、廣汎な題であります、しかし今日は時間もありませんし、大分遅くなつて居りますし、しますから、極く要點だけをつまんで申上げることゝ致しませう。

國民性といふ言葉はこの頃切りに用ゐらるゝ言葉であります、これは詳しく申せば國民性格と

いふことでありまして、國民の特性を意味して居るのであります。

昔から十人十色といふ言葉があります。茲に十人の人が集まれば顔貌は無論のことその心ばへに於ても皆違ふのであります、餘程似たところがありましてそれは畢竟似てるので、全然同じ人はないのであります。

帽子、衣物、履物等に於ても各人の好みの相違から皆互ひに異つた柄なり、品なりを身に着けて居ります。しかし是等のつけもの、即ち外からのつけものは或る程度まで同じにすることは出来ません。けれども身體上の相違になるともう決して均一ならしむることは不可能であります、身體各部の釣合、骨格、皮膚の組織、毛髮の深淺等あらゆる

る點に於ての相違は絶對的なものであります、このことを身體上の個人の特徴と言ふのであります、これと同じことが精神に就ても言はれるのであります。例へば考への緻密な人もあります、大ざつばな人もあります、斯かる精神上の性質の差は如何なる人々の間にも認めらるゝのであります。一人の人に特殊なる精神上の性質、即ち各人の特有する諸性質を引括めて個性と言ふ言葉を普通用ゐるのであります。

個人間に違ひのありますことは以上に申述べた如くであります、各個人を二つの群、即ち男子と女子とに分けてみますと、この二つの群は又それぞれ、その特徴を持つて居るのであります。

男子と女子との相違を今一々述べ立てゝゐる暇はありませんが、先づ日本人を例に引いて申しますに、満二十五才の男子と女子とを比較して見ますと身長に於て四寸の差があり、體重に於て一割餘の差があります。これは無論男子の方が身丈が

高く、且つ重いのであります。以上の如き男子と女子との身體的相違はひとり日本人間に於てのみ見られる現象ではなく、歐米の男子と女子との間に於ても同様の關係が見られるのであります。

以上の如き男子と女子との相違は性の差でありまして、普通之を性的差異と稱するのであります。次ぎに今までお話しして來ました個性の差異と性的差異との關係を調べてみませう。

今、男子は女子よりも身丈が高いと申しましたが、女子の中にも却々身丈の高い人があります。身丈の高い女子と身丈の低い男子とを並べてみれば無論身丈の高い女子の方が高いに決つてゐます。又體重に於ても女子にして男子よりも重いものがあることは言ふまでもありません。個人を男女の二群に分類して、各の總平均をとつて申します時には——即ち性的差異の側から見る時には、男子は女子よりも身長と體重に於て優つて居るのであります、しかし男女といふ區別を取除けて置いて

男子と女子とを較べると、反つて今申したこと、反對の現象を呈することがいくらかあるのです。そこでコロンビア大學のソーン教授は次の如く言つて居ります。

「個人的差異は性的差異よりも大なり」

性的差異と申しましたが、これは各の性をそれ／＼平均した上での話であることは今までの説明に依つて十分お分りのことであらうと思ひますが國民性といふことも亦性的差異と同じく平均した上でのお話なのであります。

併し國民性のお話に移ります前に、その説明の手助けとして、もう少し男女の差異に就てお話ししてみやうと思ひます。

一般に男子は理智に長け、女子は情に脆いと考へられて居ります。數學などをやらせても、何うしても男の方が上手であります。それで今日の状態では、古臭い言ひ方ではありますが、男子は理性的であり、女子は感情的であるのであります。

男子の群から特に圖抜けてすぐれたものだけを取り除け、女子の群から特に圖抜けて劣つたものだけを取り除け、さてその後で男女を比較してみますと男子と女子との能力は凡ば等しいものとなるのであります。それ故にソーン教授は「個人的差異は性的差異よりも大なり」と言つた後へすぐに次の如く附加へて居ります。

「而して、性的差異はその一端に於て相重る」

今まで申上げて來ましたのは、男子と女子とは身體的にも精神的にも互ひに異なつてゐる、しかしこの違ひは全然根本的に違つて居るのではないといふことであります。

各民族が特有する性質の違ひは丁度この男女の違ひによく似たところがあるのであります。

各民族の特徴、性質、發達、能力等を詳しく調べるのは人類學の仕事であります。茲に申上げるのは極めて大體に亘つた通俗のお話であります。日本人と歐羅巴人とを較べてみますと、身長は無

論歐羅巴人の方が高いのであります。又身體の鈎合、例へば胴の長さ、脚の長さの比例などと言ふことも歐羅巴人と日本人との間には、一見して分る相違があります、斯く身體的に互ひに相異ると同じやうに日本人と歐羅巴人とは精神上に於ても互ひに相異なるのであります。しかし此の兩者の間に於ける身體的、精神的の差異は決して根本的のものではないのであります。各民族の違ひといふものは男子と女子との違ひ程に違つて居るものでありません。

各國民はその國民性を深く研究して、自己の長所と短所とを十分に意識し、長所を助成し短所を矯正して行くやうに努めなければなりません。而して國民性を知るためには、他國民の國民性を知らなければいけません、即ち比較の便を缺くときは自己の長所、短所を十分に意識することが出來ないのであります。この國民性を認めること、即ち自國の國民全體の持つて居る特性——國民とし

ての個性を十分に意識するといふことは非常に必要なことであります。これは國民として立つて行く上に於ては是非とも必要なことであります。

各個人に於ても、自己の個性を意識して、これに依つて自己の方向を定めるといふことは非常に大切なことであります。しかし往昔の國々は國家としての一つの理想に進むことに急であつた爲めに個人を認めなかつたのであります、即ち個性は全然顧みられなかつたのであります。ペスタロツチ先生でも、フレーベル先生でも、あれ程の豪い方々でありながら、すべての人間は同じであるとお考へになつたのであります、即ち各の人が個性を持つて居るといふことを御存知なかつたのであります。これは先生達の時代に於て一般の智識がその程度にまで進んで居なかつたのでありまして斯くお考へになることも無理はなかつたのであります。しかし今日では到底斯る考は行はれません何でも個性を尊重して、長所を益々開拓して行か

なければいかぬといふことになつて居ります。

男女の違い——主に能力に關しての——などは決して根本的のものではありませんから、教育の力によつて、此の違いを取り除くやうにしなければなりません。然るに昔の教育は女子は弱いものと決めてゐて、弱いから運動はさせないといふやうにしてゐたのであります、それが爲めに弱い女子は益々弱くなつて了つたのであります。つまり男女の差は人爲的に大きくされて居るのであります。

之に反して、男女の間には能力に於て差はないものであると考へて、男子にも女子にも同じやうな教育法を施して行きますと、男女の差は漸々に小さくなつて行き、遂には殆んど相等しいものとなるのではなからうかと思ひます。尤も男女は全然同じものにはなつて了ふこととは思ひます。今日の如く著しき男女の差異は人爲的原因に依ることが大であるのであります、男女の間には

始めから天然の差があります、この天然の差といふものは何うしてもなくなして了ふことは出来ないであります。

毛髪なぞにしましても生れ付き男子は女子よりも尠く短いのであります。その代りヒゲは女子よりも濃く太いのであります——女子のヒゲは殆んど問題になりません。是等の相違は天然の差でありまして、男子が特にヒゲを氣にして培養した爲めにヒゲが發達したといふわけではありません。

併し男女間に存在する能力の相違、殊に精神能力の相違は人爲的に大きくされて居るのでありますから、これは教育の力によつてその差をいくらすから、これも小さくして行くことは出来るのであります。昔は女は頭がわるいからと言つて教育しなかつたのであります、それですから女は何時までたつても頭がわるいといふ不當な侮辱を蒙つてゐたのであります。

女子には物事を恐れるといふ特徴があります。

これは弱いといふことに關聯して考へられる事柄でありますが、これなぞも教育を受けずにするすべての理に暗かつた爲めに斯くすれば斯くなるといふことが分つてゐなかつたために物事を恐れたのでありまして、人爲的に養成されたものであります。それ故に女子を教育して十分にその智能を啓發してやれば物事を恐れるなぞといふ性質も直き消滅して了ふのであります。

併し男女の精神的差異もこれを尠くすることは出来ませんが、何んなに努めても全然同じものにして了ふことは出来ません。今日男女間に存在するやうな違ひは尠くなりますが全然違ひをなくして了ふといふわけには行きません。

今日歐羅巴人と日本人の間に存在して居る差異は今まで述べて來ました男子と女子との差異の原理を以て類推して下さるともう説明の要はないことゝなります。

歐羅巴人と日本人との違ひは教育の違ひと社會

状態の違ひから起つて來て居ります。さればと言つて今更日本人に歐羅巴人と同様の教育法を施し歐羅巴人と凡ぼ似寄りの社會状態を與へても日本人と歐羅巴人とが同じものにならないことは丁度男と女とが同じものにならないと同様であります。

男女の精神の差は天然の違ひから出發して第二次の違ひを生じて居るのであります、男女の精神の差を歴史が生み出したやうに考へてゐる人もありますが、要するに男女の違ひは社會生活の違ひから生じたのであります。

各民族間に於ける差異も亦社會生活の差異から生じたものと見て差支ないのであります。人類が今日の如くに發達しない野蠻未開の頃に於ては、各民族はあまり太した違ひはなかつたに違ひありません。個人でも教育を受けないものは大抵似たやうなものであります、併し無論全然同じであつたわけではありません。

民族の違ひは民族の生活の歴史の違ひに胚胎し

て居ります。而してこの違ひは教養の力によつて益々大きくされたのであります、民族は理想を基として、その理想に到達するに便なる教育法を採用しました。教育の仕方によつて民族の特色は益々濃くなつて行きます。

今度の歐洲戰亂によつて、各國の國民性がよく分るやうになりました、平和の時には何處の國も相應に立派の國のやうに見えて居りましたが、今度の戰亂によつて何處の國が何うといふことがすつかり曝露されたのであります。個人でもさうであります。落附いて凝ツとして居る時には誰が何うなのか一向分りませんが、遽かに地震でも搖れて來ると誰があわて、騒ぐか、誰が沈着であるかが始めて分るのであります。これと同じ理由で、今度の歐洲戰亂によつて、世界の主なる國々の長所と短所とが遺憾なく暴露されたのであります。そのことに就て次に少しく述べてみたいと思ひます。

先づ今度の戰爭で世界の注意を惹いたのは獨逸の強いといふことであります、一體獨逸人は英吉利人と同祖先でありまして、往昔はゲルマン人と稱せられて居たのであります、このゲルマン人は羅馬人と接觸するやうになつてから、之に化せられて教養ある民族となりましたが、その以前に於ては全くの蠻族で、所謂剽悍にして戰爭にも強く且つ却々殘忍であつたのであります、ゲルマン人は基督教の影響感化を受けてから、その殘忍な性質が餘程矯められたのであります、今日でも時々この昔の祖先の持つてゐた性質が現れると見えて獨軍の蠻行などといふことがチヨイ／＼報せられるやうであります。

今度の戰爭は一面から、學術の戰爭であるとも言はれます。それは交戰國が互ひに新しい武器を拵へて戰ふからであります、新しい武器を造るためには學術の研究が必要であります、智慧の戰爭とならざるを得ないのであります、従つて今度の

戦争は學術の戦争であるとも言はれるのであります。

さて、この劇烈なる學術の白兵戦に於て最も進歩したる戦闘振りを見せて居るのは何處の國であるかといふと、これも矢張獨逸であります。

獨逸人が學術にかけて優秀な國民であることも理由があるのであります。即ち獨逸人の祖先たるゲルマン人は學術に於ても却々優れて居つたのであります。これは何故かと申しまするにゲルマン人の中でも獨逸人は歐羅巴の北部の寒冷な地方に住んで居りました、この天啓に裕がでない北歐の自然は獨逸人をして極端に思索的ならしめました而して彼等の間に哲學、宗教、科學等を十分に發達せしめました。近世哲學の殆んど全部は獨逸哲學であります。宗教の方面にもマルチン、ルーテルの如き偉大なる宗教家が獨逸には出て居ります而して獨逸の科學は今日世界に定評があるのであります。それといふのも昔からゲルマン人の間に

あつた沈黙考的の性質に胚胎する所が非常に多いことは言ふまでもありません。

同じくゲルマン人を祖先に持つた英吉利は何うでありませうか。

今度の戦争の始つた頃に軍國主義と人道主義とが二つ對立して盛んに論評せられました。無論軍國主義は獨逸で、英吉利や佛蘭西やは人道主義を奉ずるものとして云々されたのであります。

寔に英吉利人や亞米利加人は——この兩國民は言ふまでもなく英語を用ゐて居る同一種族であります——平和を愛して人道主義を唱へるのであります。

獨逸人と同じ祖先を持ちながら何うして英吉利人だけが斯う違つて來たか。こゝが興味のある問題なのであります。

英吉利人はアングロサクソン人とも言つて元グレート・ブリテンの島へ侵入して、今のアイルランド人の祖先を北方へ追ひやつたのであります、



而してその後も盛んに戦争を行つたのであります。この時代には正さにゲルマン種族の特質を遺憾なく發揮してゐたのであります、それが何うして平和を愛するやうになつたか、何うして人道化したのでありませうか。

英吉利人は人道化することを理想として努めたのであります、戦争に戦争を重ねた英吉利人は戦争の不可なることを十分に知つたのであります、羅馬に於て各階級間の紛争の結果として羅馬法が生れたやうに、戦争の苦痛を十分に味つた英吉利からは平和主義、人道主義が生れたのであります。つまり英吉利ではこの理想によつて其の國民を導いて來たのであります。茲に於て我々は教育の力の實に偉大であることに驚かなければならないのであります。

教育の力、もつと廣い意味で申しますと、生活の必至は國民性格を決定するものであります。獨逸人は非常に儉約をしますがこれも斯うしくなく生

は生きて行けなかつたからであります。

國民性格の如何は其の國家の安危に係るのでありますから、國民性格といふものは國家の理想から常に顧みられなければならないのであります。

國民性は歴史的に又教育的に決定されるものであります、それ故我々是我々の國家の理想に立脚して何處までも教育の爲めに盡して行きたいと思ふのであります。

日本人は皆大和魂を持つて居ると言はれて居ります、而して忠君愛國の至情に溢れて、一致協同の實を擧げて居るのであります、これは全く今まで我々の受けて來た教育の力によつて然るのであります。若し我々の受けた教育が違つて居りましたならば我々は到底今日の如き十分なる團結を爲し得なかつたかも知れません。我々の善き性質が我々の受けた教育の力に依るといふことの證據は亞米利加邊で育つて日本で施されるやうな教育を受けなかつた我々の同胞のあるもの、中には我々

の考へ方と随分違つた考を持つてゐるといふことでも分ると思ひます。

我々是我々の持つてゐる善き性質——即ち我々日本國民の國民性が、如何にして發生し、保存され、訓練されたかを知らずして、たゞ漫然と此の國民性が、我々の皮膚の色が傳はると同じやうな仕方、子孫に傳つて行くと考へることは頗る危険であります。我々は飽くまでも我々が國民性の由來を尋ねて、教育の力によつて今後幾久しく之を保存しつゝ、而かも適宜の改良を加へて行きたいと思ひます。

幼稚園は生活の基礎を鞏固ならしむべき教育の第一階段であります。此の時代の教育に於ても、その任に當られる皆さんは十分にこの國民性問題に就て御考慮あらんことを希望する次第であります。(文責在記者)

## ○「兒童教養講習録」

兒童教養研究所が毎日曜の講演會、臨時の講演會に加ふるに夏期冬期の講演會を以てして、兒童問題の普及攻究の爲に多大の力を竭さるゝことは斯界の爲大に徳としなければならぬ。本書は今夏問所に開催せられた第一回講習會の講演の筆記集であつて、巖谷季雄氏『童話の扱ひ方』、二階堂トクヨ氏『兒童の體育』、乙竹岩造氏『兒童と學習』、唐澤光徳氏『乳兒の養育』、吉田熊次氏『兒童と徳育』、永井潛氏『母親保護』、久保良英氏『兒童の聯想』、黒田明信氏『兒童の趣味』、三田谷啓氏『神經質兒童の取扱』の諸講演が載つて居る。いづれも有益の講話である。

(東京京橋區兒童教養研究所京橋支局發賣定價金

一圓)